

圃場整備事業の再評価概要書

圃場整備事業の再評価概要書			番号	200
上段()は、前回再評価時			事業主体	栃木県
事業名	県営圃場整備事業		事業所管課	農政部 農地整備課
地区名	えがわなんぶ 江川南部I		事業箇所名	かのこはた さくら市 鹿子畑
事業区間			事業面積	70.6 ha
H13年度事業化			H14年度工事着手	
事業期間	(H13 ~ H22) H13 ~ H24	事業 進捗 状況	基準年次:【平成22年度末時点】	
全体事業費	(15.2億円) 16.0億円		進捗率	
事業概要			既投資事業費	14.2億円 88.5%
<p>本地区は、さくら市の東部で那須烏山市の北部に位置し、一級河川江川沿いに開けた水田地帯で、地形勾配1/160程度の平地農業地域である。農地は大部分が小区画・不整形であり、道路も狭く、用排水路兼用の土水路であるなど、効率的な営農が出来ない状況にあった。</p> <p>本事業により、農地の大区画化、汎用化を図り、大型機械の導入や農業生産性の向上及び事業を契機とした集落営農組織を設立し、農地利用集積を促進する等、生産性の高い農業構造を確立する。</p>				
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
<p>土地改良法の一部改正（平成13年6月29日施行）により、事業実施の原則として環境との調和への配慮が加えられ、これを契機に、地域住民においても生態系への配慮に対する意識が高まり魚道落差工を設置、植物の保全を行った。</p>				
事業の投資効果				
1 費用対効果分析結果				
(1) 事業全体		B/C = 1.03	【総便益 (B)】 22.9億円	【総費用 (C)】 22.2億円
2 事業の整備効果等				
<ul style="list-style-type: none"> ・2つの集落営農への農地利用集積面積が15.8haから40.9ha（シェア57.9%）に増加しており、効率的な経営が可能となり、耕作放棄地発生を抑止にも効果を発揮している。 ・暗渠排水等の実施により湿田の解消が図られ、転作作物として大豆、小麦、野菜の作付けが可能となり、今後、作付面積の増大が期待される。 				
事業の進捗状況等				
1 事業の進捗状況				
平成22年度末までに整地工70.6haが完了、残工事は付帯工一式である。				
2 事業工期				
平成18年度再評価時においては、未同意者との調整及び埋蔵文化財調査に期間を要するため、平成22年度事業完了予定であったが、未同意者との調整にさらに時間を要してしまったため、平成24年度まで工期が延長となった。				
3 今後の事業進捗の見込み				
平成23年度暗渠排水工事を実施し、平成24年度に換地処分を行い事業完了の予定である。				
コスト縮減等				
1 コスト縮減方策				
低位部の農地に公共残土を受け入れ、盛土費用を縮減している。(H21 V=20,000m ³ C=15,000千円)				
受益農家の意向				
整備後の農地では、営農条件が飛躍的に向上し事業効果が発現されており、また、集落営農による農地集積も着実に増加していることから、地元土地改良区は早期の事業完了を望んでいる。				
関係機関の意向				
2つの集落営農組織への農地集積を促進し、高生産性農業の確立を図る基盤整備の効果は着実に発現されており、さくら市では事業の早期完了を期待している。				
事業の対応方針(案)		現計画で事業を継続する。		

県営圃場整備事業 江川南部 I 地区 計画概要図

凡 例	
色別	区 分
黄色	平成21年度まで施工
緑色	平成22年度
赤色	平成23年度
青色	平成24年度以降

